

議 事 録

会 議 の 名 称	第4回藤井寺市総合計画審議会
開 催 日 時	令和5年6月1日(木) 午後5時30分 ~ 午後8時00分
開 催 場 所	藤井寺市役所 8階801会議室
出 席 者	(審議会委員14名) 加藤司会長、的場啓一副会長、宗田好史委員、木村三千世委員、 高原達也委員、上田裕彦委員、濱幸一委員、家田葵委員、小松祥一委員、 三浦悦子委員、松川哲也委員、下井由美子委員、森千歳委員、田中恒委員 * (欠席委員: 1名) (市側) 岡田市長、小林副市長、山本政策企画部長、永田政策企画部次長兼政策推進課長、 小川主幹、脇田チーフ、田中主査、山本副主査 (コンサルタント) 有限責任監査法人トーマツ
会 議 次 第	1. 開会 2. 会長挨拶 3. 議事 (1) 基本構想素案について (2) その他 4. 閉会
配 付 資 料	・ 審議会の次第 ・ 令和4年度第3回藤井寺市総合計画審議会会議録 ・ 資料1 第3回審議会の振り返り等 ・ 資料2 基本構想(素案) ・ 資料3 目指す将来像(案)
議事録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他()
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍 聴 者 数	2人
その他必要事項	

1. 開会

2. 会長挨拶

藤井寺市は市民活動が活発であることが強みであるため、市民や企業の力をいかに発揮いただくかが重要である。市民が Well-being を感じられるようなまちを目指し、総合計画の基本構想素案の方向性と目指す将来像を検討するため、委員の皆様には活発にご議論いただきたい。

3. 議事

(1) 基本構想素案について

事務局より資料1～3を用いて説明

<委員意見>

- ・部署間連携しないことが悪であるとされているが、各課に委任事務がどの程度あるか把握したうえでの調査となっているか。住民情報や税情報などの個人情報には連携してはいけない。法律の縛りがあるなかで質問をされているのか、どのような目的で実施されたのか。
- ・基本構想素案に人口減少を阻害している要因について書かれていない。市内に空き家・空き地が散見されている状況で、賑わいは見込めないと思う。都市計画マスタープランに関連して市街化調整区域を市街化するという説明があったが、その方法で景観が守られるようには思えない。一方で、歴史文化を活かしたまちづくりをうたっているが、具体的な提案・計画がない。行政として、計画の妨げとなっている要因は何かを突き止め、明記することが必要である。
- ・また、駅前の空き家をどう流通させるか、商店街に何をどのように誘致するか等の具体的な解決策の提示が必要である。“世界文化遺産を活かしたまちづくり”という抽象的な書きぶりではなく、景観・教育・商業などにおける現実的かつ具体的な方向性を示すことができるよう計画に盛り込み記載すべきである。
- ・「藤井寺市民が well-being につながるような、居心地の良い空間をつくる」、理想の状態を書き連ねるだけではなく、現実問題として市民の well-being を阻害している要因を明らかにすべきである。その上で、具体的に何をすべきかを明確にするべきである。
- ・世界遺産を強調するだけでなく、藤井寺市を「魅力あるまち」にしていくために具体的にどのようにまちづくりを進めるべきかを記載するべきである。
- ・職員アンケートの回収率が4割を下回っており、少ない。藤井寺を良くしていこうとする中で、市職員がこの認識なのはどうかと感じる。
- ・P4～5における計画策定の視点について、厳しい財政状況、人口減少等、どこか他人事のような書き方に思える。ここに住んでいく一人の市民の立場に立ち、我がことと捉えている書き方にすべきである。使用可能な財源が少ない状況においては、重点施策を検討し、優先順位を定め、メリハリをつけて事業を実施しなければならないのではないかと。
- ・人口が減少しており、税収は少なく、大企業がないという状況で、市として大きな収入は見込めないことから、お金を生み出す考えをしていく必要がある。小さいまちながらも IT の大きな会社を誘致する等ができなければ、経済は上向きにならないのではないかと。
- ・固定資産税の税収を増やすために地価を上げることも考えられる。そのためには景観が綺麗であることが重要となる。道が狭く曲がっていても、石畳にするなどやりようはあるかと思われるため、戦略を立

てる必要がある。

- ・財政として限りがある中で、教育、医療、高齢福祉などの事業を見直すべきか、あるいは無駄な公共施設をなくすべきかといった、喫緊の課題が書かれていない。
- ・記載内容の抽象度が高く、市として藤井寺をどうしていきたいのかというビジョンやスタンスが見えない。構想を作るにあたっては、このビジョンをしっかりと打ち出してほしい。ビジョンを実現するための細かい施策については基本計画で記載するとしても、藤井寺らしさのある具体的な内容としてほしい。
- ・P10 公共施設の総量削減が記載されているが、民間施設への入居や複合化は全国的にも実施されているものの、期待するほどのコスト縮減効果が上がっていないように思われる。財政状況改善に向けて真剣に検討すべきである。
- ・市民病院は年間2億円近くの負担となっている。こういった具体的な問題から切り込んでいかなければ財政が維持できないのではないかと。何を残し、何を削るかといった具体的な議論をする必要があると思われる。
- ・過去には、横並びの市民団体と市の観光課が連携しテーブルを作ろうとしたが、ビジョンがなくまとまらなかった。また、コロナ禍における飲食店の応援については、自治体、観光協会、商工会がそれぞれ似たような取組を個別に実施しており、横連携ができていればそれぞれの個性を活かしてより効果的に実施できたのではないかと考えている。
- ・商工会議の理事メンバーにはまちづくり協議会の会長や観光協会の会長など主たる団体の長が所属しているため、具体的なまちの問題点などについて意見交換を行ってはどうか。
- ・職員アンケートの結果から、このまま横連携を推し進めることが難しいことが分かった。市長からトップダウン式に職員に呼びかければ横連携の意識が高まるのではないかと。また、市における企画会議の際にキーマンとなる市民に参画いただいたり、そうした市民の方々に市長をバックアップするオブザーバーの役割を担ってもらえるとよいのではないかと。
- ・計画策定に係る議論の場を市民がいつでも見ることのできるような公開式にし、市民からの返信期間を設けて、市民も他の方の意見を見ることができるようプロセスなどはどうか。市職員も緊張感をもって臨むようになるのではないかと。
- ・施策が横並びの状態になっているため、厳しい財政状況、人口減少、にぎわい活力の低下等の因果関係を踏まえた上で、より戦略的にどこからどのように進めるかといった時系列を意識した計画としていただきたい。
- ・厳しい財政状況など悲観的な内容が強く見えすぎるため書きぶりは検討が必要と思われる。その現状は受け止めるべきだが、それを踏まえて良い方向へ転換すべきところ、例えば公共施設を削減することで質を上げていくなど、どう市民生活がよりよく変わっていくのかといったストーリーが示されていると良い。
- ・縮小化を行うにしても、市としての魅力を増やすために変えていくということを段階的に示してほしい。例えば、街並みを石畳にするためには何をしなくてはならないのか、将来的にはこのように効果があり、財政状況の改善につながる、というような将来のビジョンを具体的に記載していくことができれば、現状の施策も良い将来に結びつくイメージができると思う。横並びになっている施策も、緊急度に応じてメリハリをつけどういう順番で進めていくかを示し、市内の住民にどう良い影響があるのかがわかる書き方であれば、縮小化等についてもその先にある「コンパクトで住みやすいまち」というような前向きな捉え方ができるのではないかと。

- ・観光振興もしたい、人口も増やしたいではなく、施策の方向性を定める必要がある。葛井寺や道明寺の周辺で人口減少が続いているようであればマンションを取り壊して街並みを整備し、他方、駅前には生活基盤とするため再整備を行うなど、固定資産税を上げるようなまちづくりができればと考える。大阪市民が休日に遊びにくるような「小さな鎌倉」を目指してはどうか。
- ・他の自治体と同じような計画に見える。過去は一定の形式に沿って作成される総合計画も多かったが、他自治体の事例をみると、「我々市民は」といった市民を主体としたような特徴のある計画も見受けられる。そのような新たな取り組みや特徴のある計画にしてはどうか。
- ・藤井寺市は文化の香りがしない。藤井寺市には財産はあるものの、それを活かしてきれていない。橿原市ではコロナ禍が落ち着きつつあった段階から、大和川周辺で毎週フェスが開催されておりそこにキッチンカーを呼ぶなどして、市民や観光客でにぎわっている。田原本町でも毎月フェスを開催しており、音楽演奏やキッチンカーで同様の催しが行われている。藤井寺市においても、文化の魅力を発信する取り組みを行うことで、人が集まり収入も改善するのではないかな。
- ・基本構想は受け身な内容の印象を受ける。「まち・ひと・しごと総合戦略」で重要なのは“戦略”である。「人口減少は仕方がない」と受け身の姿勢となるのではなく、藤井寺市として人口減少の状況を受け止めて、「人口減少を抑制するためにどのような施策を行うべきか」といった攻めの視点も必要ではないか。また5つの施策の柱の内容は、他の自治体でもよくみられるような内容となっている。「稼ぐ藤井寺市」となることを目指し、市とそこに住む住民も稼ぐことができるようになれば、人口も上向きになるのではないかな。そのためには何をすべきかを5つの施策の柱に記載してほしい。
- ・P15に方向性1～4があるが、「藤井寺らしさ」が感じられるように書きぶりを変え、固有名詞を入れる等修正してほしい。行財政の持続可能性を項目として掲げることはよいと思っているが、課題感が他の自治体と同じように見える。「稼ぐ藤井寺市」を目指して、財政の持続可能性の視点を変えて、総合計画や実施計画を作ってもらいたい。岡田市長のマニフェストを大々的に総合計画に盛り込むことや、意思決定のプロセスに市民や関係者を巻き込むことも検討してほしい。
- ・藤井寺のランドマークである藤井寺球場がなくなり活気が失われていったと認識しているが、稼ぐまちを目指すのであればそのようなランドマークが必要となるのではないかな。また商工会や市民団体が連携して積極的に意見交換をしてはどうか。
- ・市の現状と課題の分析が浅いように思われるため、深掘りしていただきたい。一般的なSDGsの内容など不要ではないか。市にどのような課題があり、それに対し市がどのように戦略的に取り組むかが分かるようにしてほしい。また都市計画マスタープランの上位計画となることから、総合計画にまちづくりの方向性を示すべきである。
- ・市の現状において「～な状況となっている」という客観的な記載と「～が必要である」という主観的な記載がみられるが、主観的な記載については後段で取組を記載してほしい。
- ・スケジュールよりも、計画の内容をしっかりと議論して取りまとめることを優先してほしい。
- ・審議会の意見をしっかりと踏まえて修正してほしい。
- ・半分の項目となってもよいので、市をよくするためにどうすべきか、市民の目線からわかりやすいように記載してほしい。温室ガス効果や生駒断層などの記載は不要ではないか。
- ・定型的な計画とする必要はない。門前町を目指し参道を整備するなど、パースが描ける程度まで具体的に検討を行ったうえで計画に具体的に記載してほしい。ビジョンということであればイメージがイラストとして可視化できるような水準まで整理してほしい。
- ・市民の意見もしっかりと聞いたうえで計画に反映してほしい。

・職員は普段から市に対する熱い想いをもって計画を作り上げていただけるとありがたい。

4. 閉会

以上